

此後中より一りく九つる五本活字、四本

中事と改定年十一年は市連に據
別中事と改定年十一年は市連に據
之通編纂載定九月多る子
彦規の中事年々く通法持てし
あふ本持事をもる通法持てし
可中事彦規の中事年々く通法持てし
佐中事彦規の中事年々く通法持てし
後中事彦規の中事年々く通法持てし
中事彦規の中事年々く通法持てし
中事彦規の中事年々く通法持てし

村會規則編定同

本年第十八号 御公布之趣ニ據リ 富村々會
規則地方之便宜ニ從ヒ 別紙之通取設ケ呈
進仕候御支替無之候ハ、至急御裁下
被下度此段奉伺候也

明治十三年七月十日

那賀郡市場村惣代

一西 泰 助

竹中 龍 祐

那賀郡元村惣代

乾 直 輔

弓高役所より出立申上る
以て、
市村市會
之市多摩
は、
は、

守山善四郎
戸長 津田作之丞

和歌山縣令神山縣殿
お書之面 伺出度付進上度也
明治三十三年七月十日 郡守 津田 長吉 謹啓

那賀郡市場村村會規則

第一章 總則

第一條

村會ハ村限リ公共ニ關スル事件及

ヒ其經費ノ支辨賦課方汰地方税ニ係

ル戸數割テ賦課スルカ爲メ各戸出金束率

ヲ議定ス

第二條

村會ハ通常會ト臨時會トノ二類ニ

分リ其定期ニ於テ開クヲ通常會トシ臨時ニ

於テ開クヲ臨時會トス

第三條

通常會ト臨時會トヲ論ビテ會議

ノ議案ハ戸長ヨリ之レヲ發ス

第四條 臨時會ハ其特ニ會議ヲ要スル事ニ付

ニ限リ議スルモノトス

第五條 凡會議ニ於テ戸長ヨリ発スル議題

ノ外ニ議員ニ於テ異見アラハ之レヲ議場ニ向

ヒ過半数ノ同議ヲ得ハ則テ議會ノ意見ト

ナシ戸長認可ヲ得テ直ニ議題トナスヲ得

第六條 通常會ニ於テ村母ノ利害ニ關スル一

ニ付議員ニ意見アリテ縣令若クハ郡長ニ建

議セシトスル中ハ議長之ヲ會議ニ付シ過半数

ノ同議ヲ得ノ其會ノ意見トシ議長ヨリ

縣令若クハ郡長ニ建議スルヲ得

第七條 凡會議ノ議決ハ議長ヨリヲ長

ヘ報告シ戸長認可ヲ郡長ニ報告シ七日ヲ經テ

郡長ヨリ指揮スルルキハ其議決ヲ施行

スルモノトス

第八條 會議ノ議決法律又ハ規則ヲ犯シ或

ハ施行ニ妨クルト戸長ニ於テ認ムルハ其議決

ノ施行ヲ見合ヒ郡長ヲ經テ縣令ニ具狀シ其

指揮ヲ乞フ得

第九條 村會ハ議事ノ細則ヲ議定シ戸

長ノ認可ヲ得テ之ヲ施行ス

附リ議員ハ招集ニ應ゼス又ハ事故ヲ告グスルコトヲ得

第十條 議長副議長及ヒ議員ハ俸給ナシト

雖モ辨当料ヲ給スルヲ得ヘシ然レモ給スルト否

ト又ハ其多寡等ハ會議之決議ニ依ル

第十一條 議會ニ屬スル書記ハ議長ノ撰ナリ以

テ同等ノ給ヲ以テ雇入ル、イテ得其給ノ

多寡ハ會議之決議ニ依ル

第二章

第三章

第十二條 議員定數ハ戸數ノ多寡ニ依之テ定

ム則テ尤之如シ

但シ議員定數ハ村別記ストモ其村限リ之レヲ

一市場村西四十八戸 議員十五人以下 但シ十戸以下

一元 村西四十一戸 議員十人以下 但シ九戸以下

第十三條 議長副議長ハ議員中ヨリ之ヲ

公撰シ議員ノ姓名ト共ニ郡長ニ報告シ村内ヘモ公

告スベシ

但シ改選或ハ補欠員選舉ノ時モ亦本條ニ

第十四條 村會議員トナリ又ハ議員ヲ撰挙

し得へき者ハ滿二十歳以上ノ男子戸主ニシテ
其村内ニ本籍居住ヲ定メ其村内ニ於テ地担
ヲ納ムルモノニ限ル

但し左ノ各款ニ觸ル者ハ議員タルヲ得
ス又ノ第一款第二款第三款ニ觸ル者ハ撰
舉人タルヲ得ス

第一款

風癲白癡ノ者

第二款

懲役一年以上及國事犯罪
獄一年以上實決ノ刑ニ処セラレ
タル者

第三款

但し被刑後滿七ケ年ヲ經
過スルハ此限ニ非ス

第四款

身代限り之處分ヲ受ケテ
償ノ義務ヲ終ヘサル者

第五款

官吏教道等職

村會ニ於テ退職者トシテ

第十五條

議員ヲ撰舉セシトスルハ戸長ヨリ

撰舉會ヲ開ク者ヲ少クモ十日以前ニ其村内

ニ告示シ豫メ投票用紙ヲ配布ス

第十八條 撰 撰人ハ戸長ヨリ受ケタル投票用紙ニ
被撰人ノ姓名及ヒ自己ノ姓ヲ記シ捺印之上撰
挙會期日迄戸長役場へ差出スベシ

第十七條 投票撰挙會ノ期日ニ於テ戸長面前
ニ於テ之ヲ開票シ戸長之レヲ精査多數ノ者
ヲ以テ撰人トシ同數ノ者ハ年長ヲ取り同年
ノ者ハ圖取ヲ以テ之ヲ定ム若シ當撰人法ニ於テ
不適当ナル或ハ即時事故疾病ニヨリ其撰テ
辞スルハ順次投票多數ヲ得タル者ヲ取ル
第十八條 当選人ノ当否ヲ査定スルハ後戸長

ハ其當撰人へ当撰狀ヲ渡シ當撰人ハ其受書
ヲ戸長へ差出スヘシ

第十九條 議長副長ノ任期ハ二年トシ議員ノ任
期ハ四年トシ任期毎ニ之レヲ改撰ス

但シ改撰ノ日ニ於テ前任ノ者ヲ再撰スルモ妨ナシ
第二十條 議員中若シ事故疾病等ニ欠員スル
ハハ更ニ其欠ヲ補フノ議員ヲ撰挙ス

但シ其任期ハ前任ノ期ヲ續クモノトス

第三章 議 則

第二十一條 議員半数以上出席セザレバ當日

ノ會議ヲ開カス

第三十二條 會議ハ過半數ヲ以テ可決ス可
否

同數ナルキハ議長ノ可否スルニヨル

第三十三條 戸長若クハ其代理人ハ議場ニ於テ

議案ノ旨趣ヲ辨明スルニ止マリ之ヲ決議ノ

數ニ入レス

第三十四條 會議ハ傍聴ヲ許ス
但シ戸長ノ要メニ依リ又ハ議長ノ意見ヲ以

テ禁スルヲ得ルハシ

第三十五條 議員ハ議場ニ於テ十分ニ議討
論

ノ權ヲ有ストシ其決定ヲ互ニ人身上ノ褒貶
數

譽目ニ涉ルヲ得ス

第三十六條 議員議場ニ於テ強暴ニ涉ルカ或ハ

議場ノ規則ヲ紊ラスイアラハ議長之ヲ制

止シ其命ニ從ハサルキハ議長ハ議場外ニ退

去セシムルノ權ヲ有ス其場之都合ニ依リ警察

官吏ノ處分ヲ要求スルヲ得

第四章

第三十七條

村會ハ毎年七月ニ於テ之ヲ開ク

其開會ハ戸長ヨリ之ヲ命シ會期ハ十日以内

トス其開會ニ先ナ郡長ニ報告スルモノ

トス

第九條 臨事ニ會議ヲ要スル事 付アラハ

通常會ノ外ニ臨時會ヲ開リ

但シ該會ヲ要スル事由ヲ郡長ニ報告ス

書面左ニ通裁定也事

明治三十七年七月十九日

和歌山縣知事 山本 幸三郎

第六條 議長ニ屬シ

勢

シ得シノ七字アリ

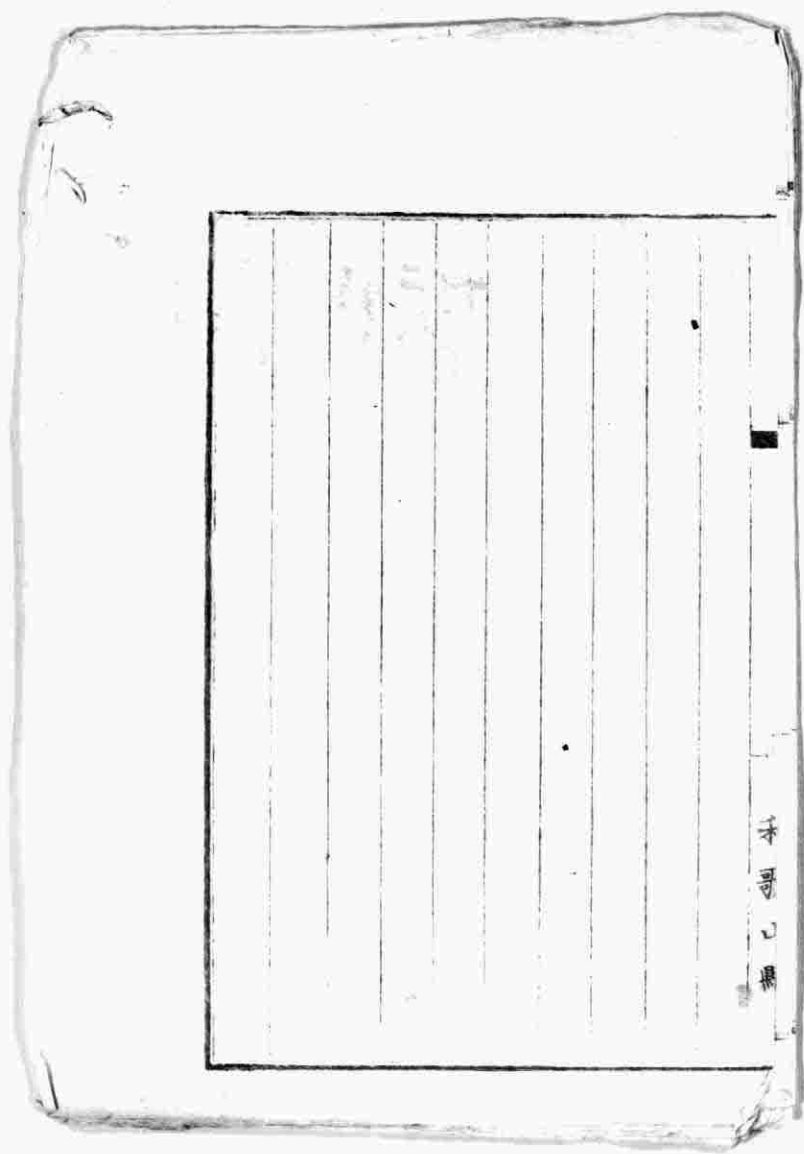
小差者アリ

野々子

二部

竹梅

口大



0169

安楽川村文書 I

文書
番号

017

28m 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23